

議事要旨(1) 2015年7月開催会計基準アドバイザー・フォーラム (ASAF) への対応

冒頭、小賀坂副委員長より、2015 年 7 月開催会計基準アドバイザー・フォーラム (ASAF) への対応について、審議資料に基づき説明がなされた。続いて、関口常勤委員及び板橋ディレクターより審議資料に基づき詳細な説明がなされた。

説明に対する委員からの主なコメントと、それらに対する事務局からの回答は次のとおりである。

EFRAG ペーパー「純損益か OCI か」

- ある委員より、次のコメントがあった。
 - ASAF 会議における発言案の全般的な方向性を支持する。ただし、事業モデルの区分のあり方について提示されている発言案は相当詳細であるため、特に重要な点に絞って発言すべきと考える。

これに対して、事務局より、次の回答がなされた。

- 審議資料に記載されている「ASAF 会議における発言案」は、内容的には、「当委員会事務局による分析」に近い内容であるため、当該分析を踏まえつつ、ASAF 会議までに発言案を簡潔にまとめたい。

- ある委員より、次のコメントがあった。
 - EFRAG ペーパーでは、OCI に表示される数理計算上の差異について明示的にリサイクリングを行うことが提案されていない。また、割引率の変動による影響を OCI 又は純損益のどちらに含めるべきかについては基準レベルで決定すべきとされている。EFRAG ペーパーにおいて、こうした提案となっている理由はどのようなものか。

これに対して、事務局より、次の回答がなされた。

- EFRAG ペーパーでは、OCI のリサイクリングについて明示的な記述はないが、EFRAG は以前より、リサイクリングを行うことによって財務諸表の目的適合性が高まる場合、関連する事象又は取引が発生した時点で OCI のリサイクリングを行うべきと主張していた。この点、「関連する事象又は取引の発生」に時の経過を含むべきかについて議論があることから、今回のペーパーでは、OCI のリサイクリングを基準レベルで決定すべきとしているのではないか。

- ある委員より、次のコメントがあった。
 - EFRAG ペーパーの提案のように事業モデルの種類を増やす場合、結果的に、企業による会計処理の選択肢を不適切に増やすことにつながるのではないか。

これに対して、事務局より、次の回答がなされた。

- EFRAG ペーパーで提案されている事業モデルの考え方が十分に運用可能かについて慎重な検討が必要と考えられる。他方、仮に提案されている事業モデルの考え方が概念フレームワークに記述されたとしても、これが直ちに会計基準の要求事項になる訳ではない。
- ある委員より、次のコメントがあった。
 - EFRAG ペーパーにおける純損益の表示及び目的適合的な測定基礎の選択に関する基本的な考え方は、当委員会によるこれまでの主張と共通する考え方であるため、基本的に当該ペーパーを支持すべきと考える。特に、価格変動事象モデルにおいては、価値の変動から生じる利得は純損益に報告すべきとしている一方、それ以外のモデルにおいては、財務業績の報告の観点からは原価で測定することが原則として目的適合的としている点について支持できる。
 - 但し、EFRAG の提案では、従業員給付に関連して、確定給付費用のうち負債の測定に含まれている期待キャッシュ・アウトフローの見積りのすべての変動（市場インプットの変動は除く。）については直ちに純損益に認識すべきとしている。この点については、明確に反対すべきではないか。

IAS 第 37 号に関するリサーチ

- ある委員より、次のコメントがあった。
 - IASB による概念フレームワークの公開草案において記述されているように、適切な認識規準は基準により異なると考えられ、ASAF 会議の発言でも、この点を追加して強調すべきである。認識規準に関する個々の基準開発の強い判断根拠を概念フレームワークに置くべきではないと考える。

これに対して、事務局より、次の回答がなされた。

- 概念フレームワークにおける認識規準のあり方については、次回の委員会において、2015 年 7 月の ASAF 会議で予定されている議題「概念フレームワークの公開草案：認識及び認識の中止」への対応として議論を予定している。このため、本件については、その際に議論させていただきたい。

以 上